

# 令和7年度 第1回 徳島県GIGAスクール構想推進本部会議

徳島県GIGAスクール構想推進本部事務局



# 次 第

---

日時 令和7年5月29日（木） 午後1時30分から午後2時45分まで

## 1 開 会

## 2 本部長挨拶

## 3 報告・協議

- (1) 推進本部及び各部会の設置・役割 及び  
推進本部の目標について
- (2) 推進チームの取組内容について
- (3) 各部会の目標・取組等について
- (4) その他

## 4 閉 会

# 出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育長	中川 斉史	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	徳島市教育委員会 教育長
徳島県教育委員会 副教育長	松本 光裕	欠席
徳島県小学校長会 副会長(脇町小学校長)	大塚 一志	
徳島県中学校長会 会長(那賀川中学校長)	笠谷 祐史	欠席
徳島県中学校長会 事務局長(富田中学校長)	滝川 尚	代理出席
徳島県高等学校長協会 会長(徳島北高等学校長)	向井 佳子	欠席
みなと高等学園 学校長	安崎 輝彦	代理出席
徳島県特別支援学校長会 会長(鴨島支援学校長)	喜多 久美子	
徳島県教育委員会 教育次長 (幼・小・中学校担当)	海老名 正規	欠席
徳島県教育委員会 教育次長 (高・特別支援学校担当)	眞相 秀也	

# 出席者名簿

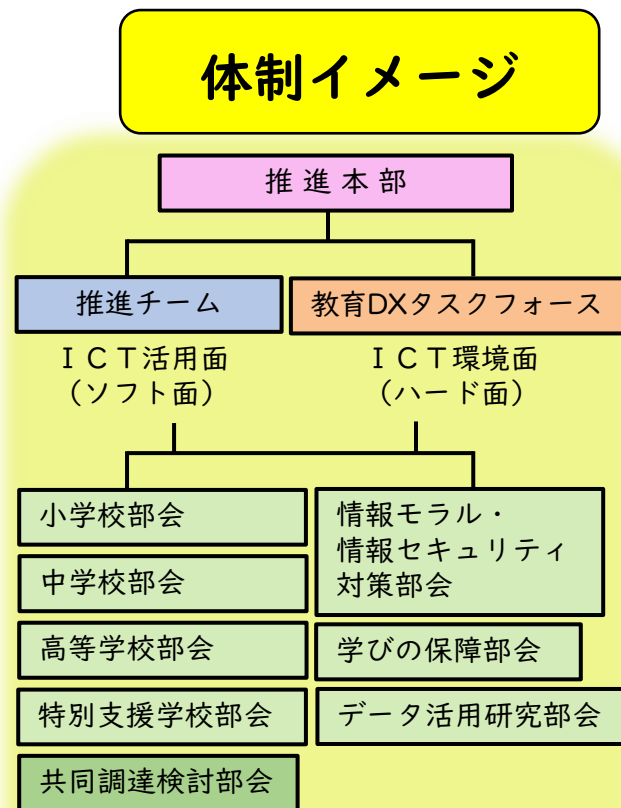
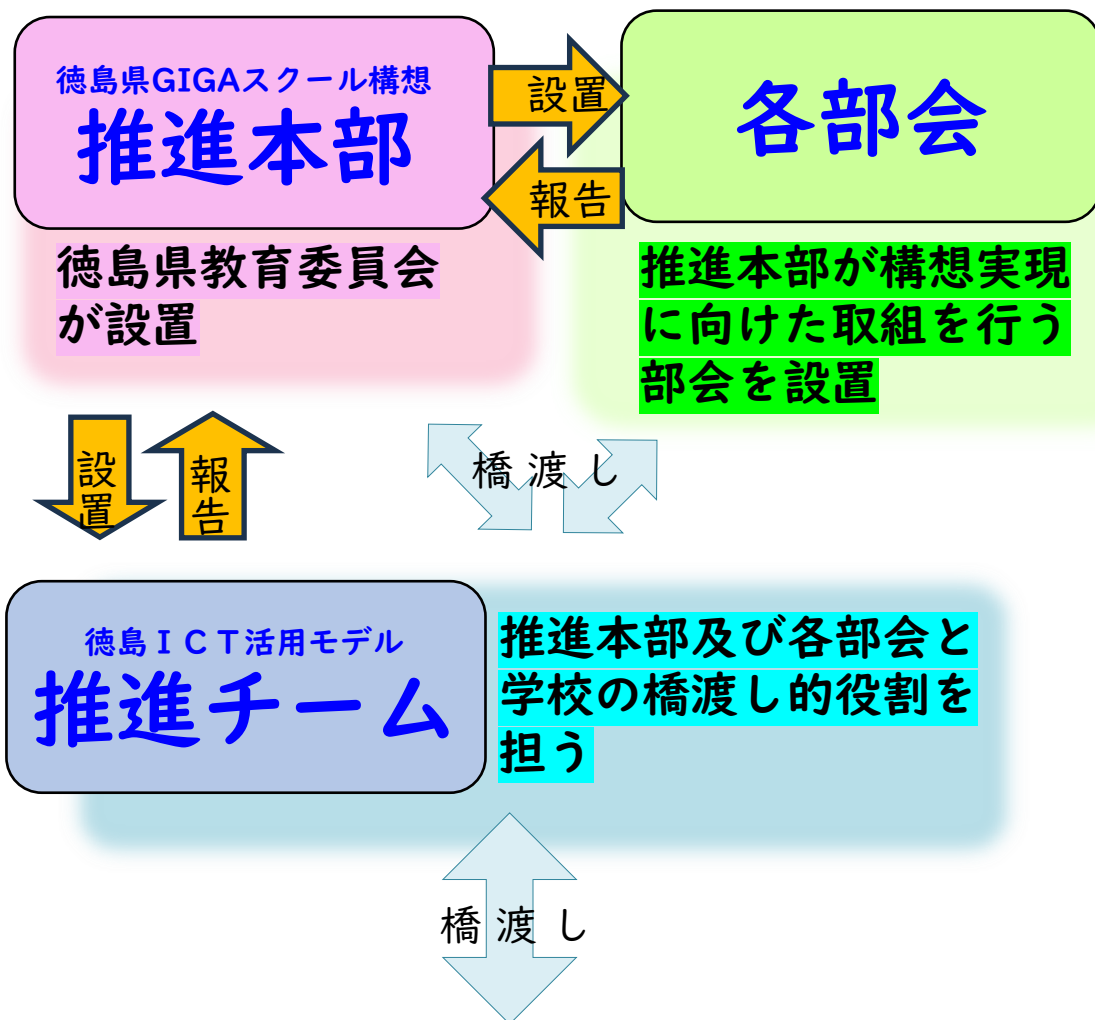
所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	地面 浩	
徳島県教育委員会 教育DX推進課 課長	戎 弘人	教育DXタスクフォースリーダー 及び共同調達検討部会長併任
徳島県教育委員会 教育DX推進課 主幹	黒田 收	推進チームリーダー 情報モラル・情報セキュリティ対 策部会長併任
徳島県教育委員会 義務教育課 課長	長谷 彰彦	
徳島県教育委員会 義務教育課 主幹	村岡 文英	中学校部会長
徳島県教育委員会 高校教育課 課長	金岡 由岐子	
徳島県教育委員会 高校教育課 主幹	藤本 智美	高等学校部会長
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	中山 登	特別支援学校部会長併任
徳島県教育委員会 いじめ・不登校対策課 主幹	宮田 善夫	学びの保障部会長
徳島県立総合教育センター 次長	宮城 佳恵	小学校部会長
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	平田 義明	データ活用研究部会長

【事務局】徳島県教育委員会 教育DX推進課 GIGA・学び創造担当

事務局長：富永憲志、庶務担当：山下芳紀、事務局員：楠俊弘・大西芳正・藤倉新・播磨敬二

# R7 徳島県GIGAスクール構想 各組織の構成

(推進本部事務局より)



※共同調達検討部会は、徳島県教育情報化推進協議会に係る検討組織の役割も兼ねる。  
必要に応じて、本部会議にて情報を共有する。

徳島県内の県市町村立  
**小学校・中学校・高等学校・特別支援学校**

# 昨年度の推進目標と全体重点目標

(推進本部事務局より)

## ■ 推進目標

「教育DXによる学び・指導の充実と深化」

・「徳島ICT活用モデル」のA段階以上の実施率100%

## ■ 全体重点目標

### ①「徳島ICT活用モデル」を活かした効果的活用の実践

- ・ICT活用による「子ども主体の学び」の充実
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」についての研究

### ②教育DXによる新たな「学び」を創出

- ・「子ども主体の学び」と「ICT」のベストマッチを検証
- ・生成AI等を活用した授業を研究

### ③情報モラル・情報セキュリティ教育の充実

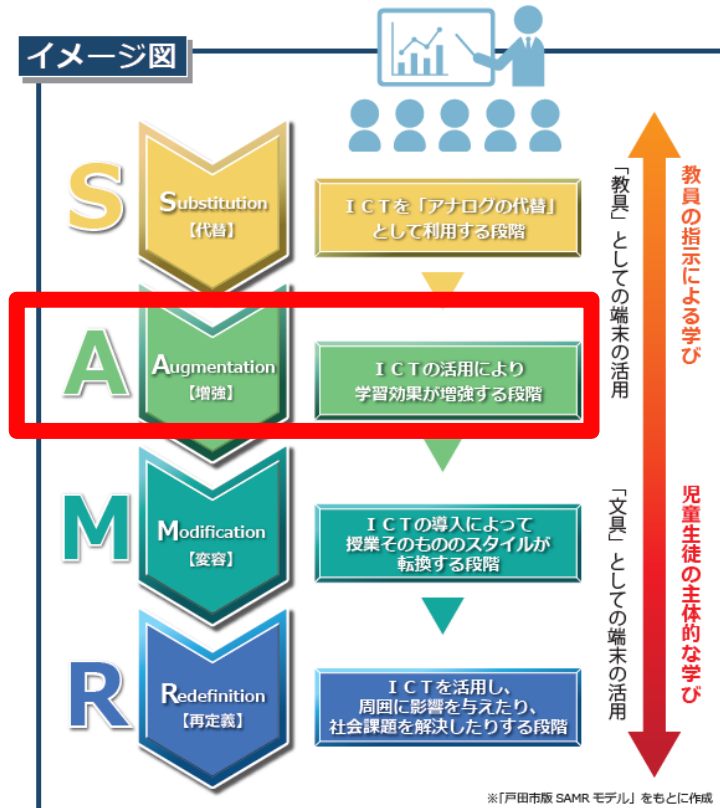
- ・デジタル技術の適正な利活用スキルと情報社会に参画する能力の育成

# R6「徳島 I C T 活用モデル」について

(推進本部事務局より)

## 徳島ICT活用モデル

「徳島 I C T 活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校における D X による学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。I C T が授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標 (S ~ R) をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。



- ・R6年3月、推進本部にて策定
- ・R6年4月、全教職員へ配布

## 昨年度の目標

A段階以上の実施率が、全校100%を目指す。

## SAMR(セイマー)による段階・指標

S:ICTを「アナログの代替」として利用

A:ICTの活用により学習効果が増強

M:ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換

R:ICTを活用し、周囲に影響を与える、社会課題を解決する

# R6「徳島 I C T 活用モデル」に関する取組の結果

(推進本部事務局より)

## 昨年度の目標

A段階以上の実施率が、全校100%を目指す。

## 令和6年5月と令和6年12月のSAMR比較表

校種/5月	「S」段階	「A」以上の段階	校種/12月	「S」段階	「A」以上の段階	内訳 (A)	(M)	(R)
全校種	47.1%	52.9%	全校種	5.5%	94.4%	78.6%	14.8%	1.0%
小のみ	40.2%	59.8%	小のみ	2.5%	97.5%	78%	19.5%	0.0%
中のみ	51.2%	48.8%	中のみ	8.8%	91.3%	80%	10%	1.3%
高のみ	65.8%	34.2%	高のみ	12.5%	87.5%	77.5%	7.5%	2.5%
特のみ	45.4%	54.6%	特のみ	0%	100%	81.8%	9.1%	9.1%

※四捨五入により合計100%にならない箇所もあり

## 年度末に「A」以上になる見込みを含む場合

校種/年度末の見込み	「A」以上の段階
全校種	97.2%
小のみ	99.4%
中のみ	95.1%
高のみ	92.5%
特のみ	100%

特別支援学校は目標達成となった。  
小・中・高においては、  
「A」段階以上の実施率100%には  
至らなかったが、多くの学校が「A」  
段階 以上に向上した。



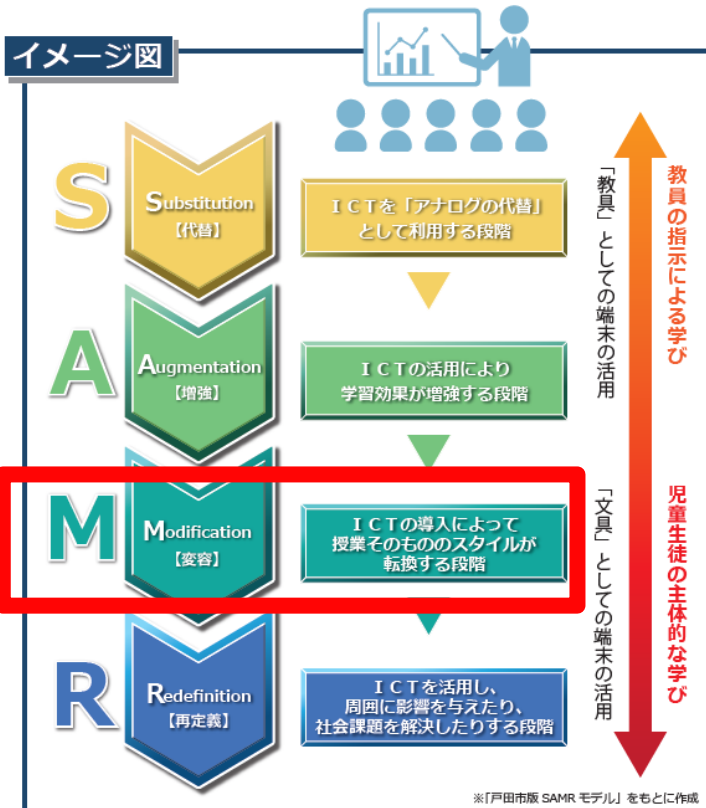
# R7「徳島 I C T 活用モデル」について

(推進本部事務局より)

## 「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出へ

### 徳島ICT活用モデル

「徳島 I C T 活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校における D X による学び・指導の変革、1 人 1 台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。  
I C T が授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標 (S ~ R) をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。



## DXの入り口へ

### SAMR(セイマー)による段階・指標

S: I C T を「アナログの代替」として利用

A: I C T の活用により学習効果が増強

M: I C T の導入によって授業そのもののスタイルが転換

R: I C T を活用し、周囲に影響を与える、社会課題を解決する

# R6「徳島 I C T 活用モデル」に関する取組の課題

## 「S」段階の学校における課題より

(推進本部事務局より)

「S」段階の学校における課題分類の割合

情報収集: 令和6年12月

ICTの活用推進 (GIGAスクール構想や教育DXの理念・理論の共有、授業や校務のデジタル化・ICT活用・DX推進等)	12.5%
ICTの効果的活用 (各教科等におけるICTの活用研究・校務でのICT活用による働き方改革等)	25%
データ利活用 (教育データの収集・分析・利活用方法についての研究等)	6.3%
児童生徒の情報活用能力の育成 (モラルも含む)	8.3%
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた研究・実践等	4.2%
デジタル人材の育成 (教員のICTスキルアップ等)	20.8%
機器・ネットワーク環境 (整備・要望等)	10.4%
ICT支援員との連携	12.5%

「ICTの活用推進」にも影響  
⇒効果的でないから使わない

⇒「S」段階の学校では、「ICTの効果的活用」と「デジタル人材の育成」が課題となっている割合が高い。

### ① ICTの効果的活用について

⇒各教科等で育成すべき資質・能力の向上が見られるか？

⇒各教科等担当・研修担当指導主事等との連携、好事例の共有

### ② デジタル人材の育成

⇒地域間や学校間、教員間等で生じている格差への手立て

⇒教員のICTスキルアップを図る必要性

# 学校が抱えてきた諸課題に対する解決策として

## 県域のアカウント普及・活用の支援

(推進本部事務局より)

### R6「徳島ICT活用モデル」に関する取組の課題

#### 「S」段階の学校における課題より

情報収集: 令和6年12月

「S」段階の学校における課題分類の割合

ICTの活用推進 (GIGAスクール構想や教育DXの理念・理論の共有、授業や校務のデジタル化・ICT活用・DX推進等)	12.5%
ICTの効果的活用 (各教科等におけるICTの活用研究・校務でのICT活用による働き方改革等)	25%
データ利活用 (教育データの収集・分析・利活用方法についての研究等)	6.3%
児童生徒の情報活用能力の育成 (モラルも含む)	8.3%
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた研究・実践等	4.2%
デジタル人材の育成 (教員のICTスキルアップ等)	20.8%
機器・ネットワーク環境 (整備・要望等)	10.4%
ICT支援員との連携	12.5%

「ICTの活用推進」にも影響  
⇒効果的でないから使わない

⇒「S」段階の学校では、「ICTの効果的活用」と「デジタル人材の育成」が課題となっている割合が高い。

#### ① ICTの効果的活用について

- ⇒各教科等で育成すべき資質・能力の向上が見られるか？
- ⇒各教科等担当・研修担当指導主事等との連携、好事例の共有

#### ② デジタル人材の育成

- ⇒地域間や学校間、教員間で生じている格差への手立て
- ⇒教員のICTスキルアップを図る必要性

⑧



・徳島県内の公立学校に、共通ドメインによる県域を統一したGoogleのアカウントを教職員及び児童生徒に発行。

・校種や市町村の別による影響が小さく、効果的な学習指導や業務効率化に係る好事例の普及だけでなく、児童生徒による自らの学習履歴や教育データの効果的活用にも有効。

「徳島教育大綱」及び「徳島県教育振興計画」における施策の方向性も踏まえて

※県域のアカウント（以下、「県域アカウント」という。）

# 令和 7 年度 推進目標と全体重点目標

(推進本部事務局より)

## 令和 7 年度の推進目標 (案)

「学びを豊かにする教育 D X の推進」

- ・各校における「徳島 I C T 活用モデル」の M 段階の事例研究・創出

## 令和 7 年度の全体重点目標 (案)

- ① G I G A スクール構想の更なる展開  
「M」段階の事例創出 「S」段階の学校のボトムアップ  
・「徳島 I C T 活用モデル」による学び・指導の変革と I C T の活用推進
- ② I C T を活用した教育の推進  
「県域アカウント」の普及  
・県域アカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進  
・先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進
- ③ I C T の利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実  
・児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成  
・児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

# R7 徳島県G I G Aスクール構想 各部会の役割

(推進本部事務局より)

## 各部会

小学校部会

中学校部会

高等学校部会

特別支援学校部会

各校種部会

推進目標・全体重点目標に向けた支援  
(各校種の実態・発達段階等に応じて)

### R7のメインテーマ

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出に向けた支援
- ② 県域アカウントの普及支援
- ③「徳島ICT活用モデル」S段階の学校へのボトムアップ支援

### 「M」段階の事例創出

- ☆M段階の入り口に到達するために、まずすべきことは？
- ☆児童生徒の主体的な学びを実現するためのポイントは？

### 「県域アカウント」の普及

- ☆県域アカウントを活用していくメリットをどう伝えるか？
- ☆学校現場での「標準化」を何から、どのように進めていくか？
- ☆授業・学習等でどう活用するか？
- ☆校務・研修等でどう活用するか？

### 「S」段階の学校のボトムアップ

- ★A段階に到達するためのポイントは？必要な手立ては？

### 教育DXタスクフォース

持続可能なG I G Aスクール構想推進に向けた環境設計の提案（学校のネットワーク・県立校の端末等）

### 情報モラル・情報セキュリティ対策部会

情報モラル・情報セキュリティ関係の情報収集・発信等（各校種部会と連携）

### 学びの保障部会

学校（教室）外における学びの場を保障するためのI C T活用についての研究

### データ活用研究部会

教育データ利活用についての研究

### 共同調達検討部会

G I G Aスクール構想推進に向けた調達スキームの構築・実行計画の提案（小・中学校の端末・次世代システム等）

※共同調達検討部会は、徳島県教育情報化推進協議会に係る検討組織の役割も兼ねる。



# 令和7年度 年間スケジュール

(推進本部事務局より)

## 徳島県GIGAスクール構想推進本部

### 推進本部・各部会

### 徳島ICT活用モデル推進チーム

月

4

・推進本部・部会設置・委嘱

・学校訪問計画、準備、打合せ  
・教育DX推進に係る年間スケジュール表の発行(各校へ)

5

・第1回各部会の開催  
・徳島県学校教育情報化推進計画に係る調査  
・第1回推進本部会議(本日)

・前期学校訪問実施開始【5月～7月】  
(施策の周知、指導・助言、取組や意見の収集)  
・各部会への情報提供(通年)

6

・とくしまGIGA推進月間

9

・後期学校訪問実施開始【9月～12月】

10

・第2回各部会の開催

11

・第2回推進本部会議

・とくしまGIGA推進月間

12

・とくしまGIGA推進月間の取組紹介

2

・第3回各部会の開催

3

・第3回推進本部会議  
・次年度に向けての準備

・次年度に向けての準備

※教育DXタスクフォース及び共同調達検討部会は、このとおりではありません。

# 令和 7 年度 推進目標と全体重点目標

(推進本部事務局より)

## 令和 7 年度の推進目標 (案)

「学びを豊かにする教育 D X の推進」

- ・各校における「徳島 I C T 活用モデル」の M 段階の事例研究・創出

## 令和 7 年度の全体重点目標 (案)

### ① G I G A スクール構想の更なる展開

- ・「徳島 I C T 活用モデル」による学び・指導の変革と I C T の活用推進

### ② I C T を活用した教育の推進

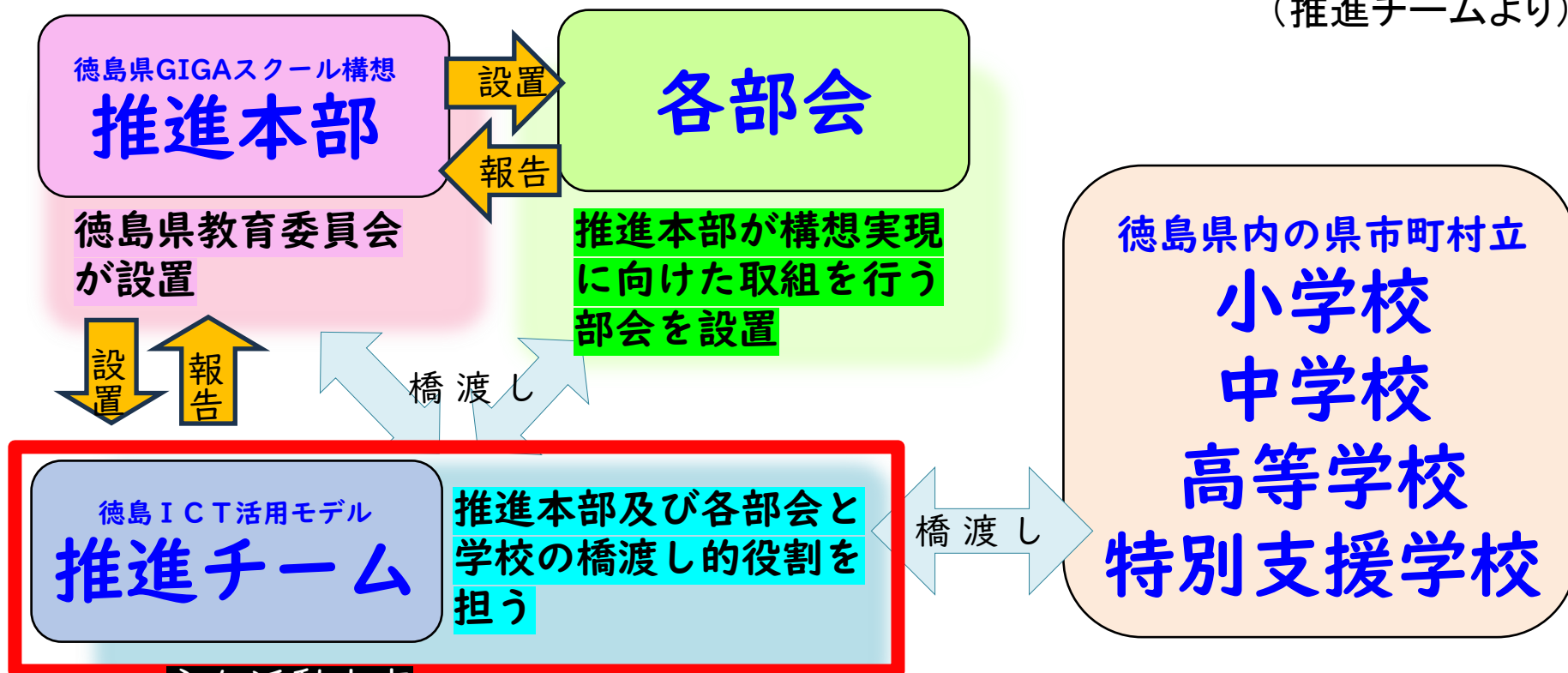
- ・県域アカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進
- ・先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進

### ③ I C T の利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成
- ・児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

# R7 徳島 I C T 活用モデル推進チームについて

(推進チームより)



## 主な活動内容

- ☐ 推進本部及び各部会の施策等の周知（「R6版FAQ」も紹介）
- ☐ 学校訪問等での指導・助言及び事例の収集
- ☐ 訪問校の課題・取組・意見等の収集
- ☐ 各課の学校訪問担当指導主事等との情報共有
- ☐ 「徳島 I C T 活用モデル」を基とした教育 D X の支援
- ☐ 各校種部会からの提案の周知
- ☐ G I G A 推進月間における実践の依頼・各校の取組紹介
- ☐ 他の教育 D X 関連事業等との連携



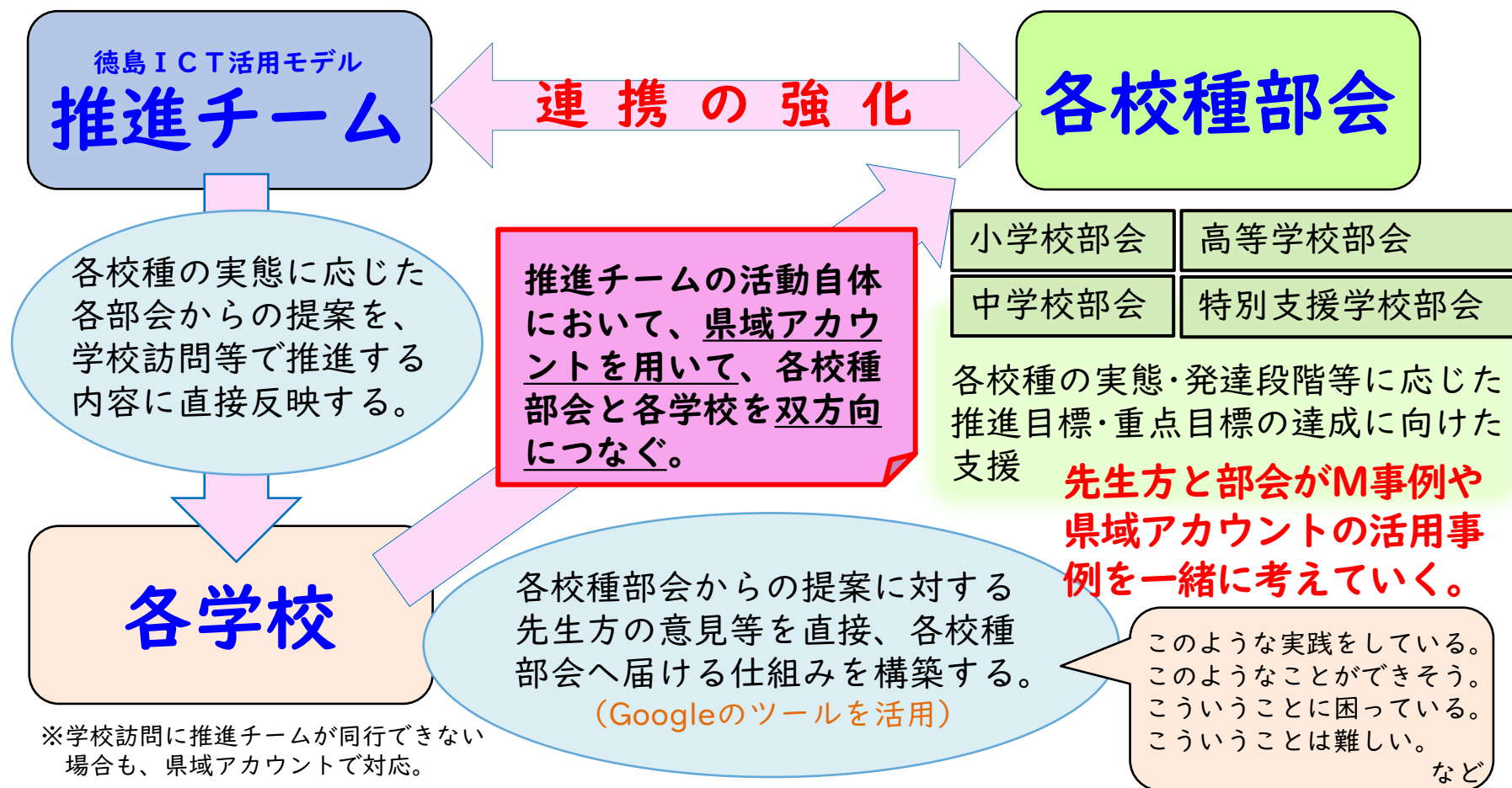


# R7 徳島 ICT活用モデル推進チームの取組

(推進チームより)

## 令和7年度の重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ②「**県域アカウント**」の普及



# R7 徳島 I C T 活用モデル推進チームの取組

(推進チームより)

## 令和7年度の重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ②「県域アカウント」の普及

## A段階からM段階への壁

「S・A」段階と「M・R」段階は、根本的に授業そのものが異なる。

教育DXの推進(「徳島ICT活用モデル」の活用)について

### (2)「徳島ICT活用モデル」について

③「S・A」段階と「M・R」段階について(「ICT活用教育」と「教育DX」について)



## デジタル学習基盤が可能とする学び

### 情報活用の場面

収集 判断 表現 処理  
創造 発信 伝達



### 充実の具体的な姿

#すぐに #いつでも #どこでも  
#1人1人に応じて #大量に #誰とでも  
#何度でも

# R7 徳島 I C T 活用モデル推進チームの取組

(推進チームより)

## 令和7年度の重点推進事項

- ① 「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ② 「県域アカウント」の普及

### 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】

令和7年1月28日  
第147回初等分科会  
資料 1 - 2

#### 主な審議事項

##### 1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい 学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 重要な理念の関係性の整理（「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等）
- デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をよりよく育成するための各教科等の示し方
- 学習改善・授業改善に効果的な評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

##### 2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザイン的重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特例校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方）
- 高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程の実現のための、全日制・定時制・通信制を含めた諸制度の改善の在り方
- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向けた教育課程上の特例等の在り方

デジタル学習基盤を前提とした学習指導  
要領や教育課程の在り方について議論



# R7 徳島 ICT活用モデル推進チームの取組

(推進チームより)

## 令和7年度の重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ②「県域アカウント」の普及

※県域のアカウントとは  
共通ドメインによる県域を統一した  
Googleのアカウント



県域のアカウントで利用可能な全国的によく使われているアプリケーション

- ①Google Classroom  
学習管理ツール。クラス作成、課題作成、フィードバック等が行える。
- ②Google スプレッドシート™  
表計算ツール。複数人での同時編集が可能。
- ③Google スライド™  
プレゼンテーション資料作成ツール。複数人での同時編集が可能。
- ④Google Chat™  
個人宛からグループ間まで、手軽にコミュニケーションがとれるツール。
- ⑤Google ドライブ™  
オンラインストレージ。ほかのユーザーの閲覧や編集を許可できる。

## 標準化と自由化

標準化⇒県域アカウントで利用可能なツールを活用した授業づくり・校務DXなど

※県内全ての児童生徒・教職員が共通して、一定のスキルやノウハウを身に付けていく。

## 県域アカウントのメリット(一例)

- ①教師のメリット  
校種や市町村の枠を越えて、各ツールの実践事例やノウハウの共有が可能。
- ②児童生徒のメリット  
進学・転校時、学習成果物等を持ち越すことが可能。
- ③将来的な教育データの利活用  
ダッシュボード機能を実装するにはデータの一元化(統一ツール)が必要。

徳島県GIGAスクールサポートサイト



## 徳島県GIGAスクールサポートサイト

お知らせ

- ・徳島県の公立学校等で、GIGAスクール構想を推進するために必要な情報を掲載しています。
- ・工事中のページは、随時追加・更新していきます。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。
- ・マークのページは、パスワードを入力してください。(旧サイトと同じパスワードです)

### 情報モラル教育

- ・GIGAワークブック
- ・デジタルコンテンツ
- ・情報モラル推進事業 etc.

### プログラミング教育

- ・研究指定校の取組
- ・事例コンテンツ
- ・リンク集 etc.

### 研修・校務への活用

- ・**県域アカウントの使い方**
- ・校務での活用事例
- ・アプリの使用法 etc.

### 各種書式・リンク集

- ・端末利用・修理関連
- ・リンク集 etc.

本サイトの画像・動画、及びすべての情報について、無断で転載・頒布することを禁じます。

Copyright © 徳島県教育委員会 All Rights Reserved

# R7 徳島 I C T 活用モデル推進チームの取組

(推進チームより)

## 令和7年度の重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ②「県域アカウント」の普及

5月

各校にて「徳島ICT活用モデル(以下、「活用モデル」という。)」を基に、自校の現状を把握する。(「活用モデル」でセルフチェックを行う。等)

6月と11月の「とくしまGIGA推進月間」に向け、各校にて、どのような活動を行うか、共通理解を図る。

【M段階の事例創出に向けた取組】

【県域アカウントを活用する取組】

6～10月

各校にて 推進・研究・研修・実践 等

### 【とくしまGIGA推進月間(6月)】

- 各校にて「1人1台端末」を活用した実践授業等を実施
- 教育DX推進に係る調査への回答(フォーム)

各校種部会からの提案等も参考に。

11～12月

### 【とくしまGIGA推進月間(11月)】

- 各校にて「1人1台端末」を活用し、M段階を意識した授業や県域アカウントを活用した実践授業等を実施
- 実践例を報告(各校のHPに掲載)
- 教育DX推進に係る調査への回答(フォーム)

1～3月

各校にて、令和7年度の実践を共有し、振り返り・まとめ等を実施。

先生方からの意見等を参考に、支援の内容や方向性等を見直す。

随時、先生方の意見等を直接、各校種部会へ。

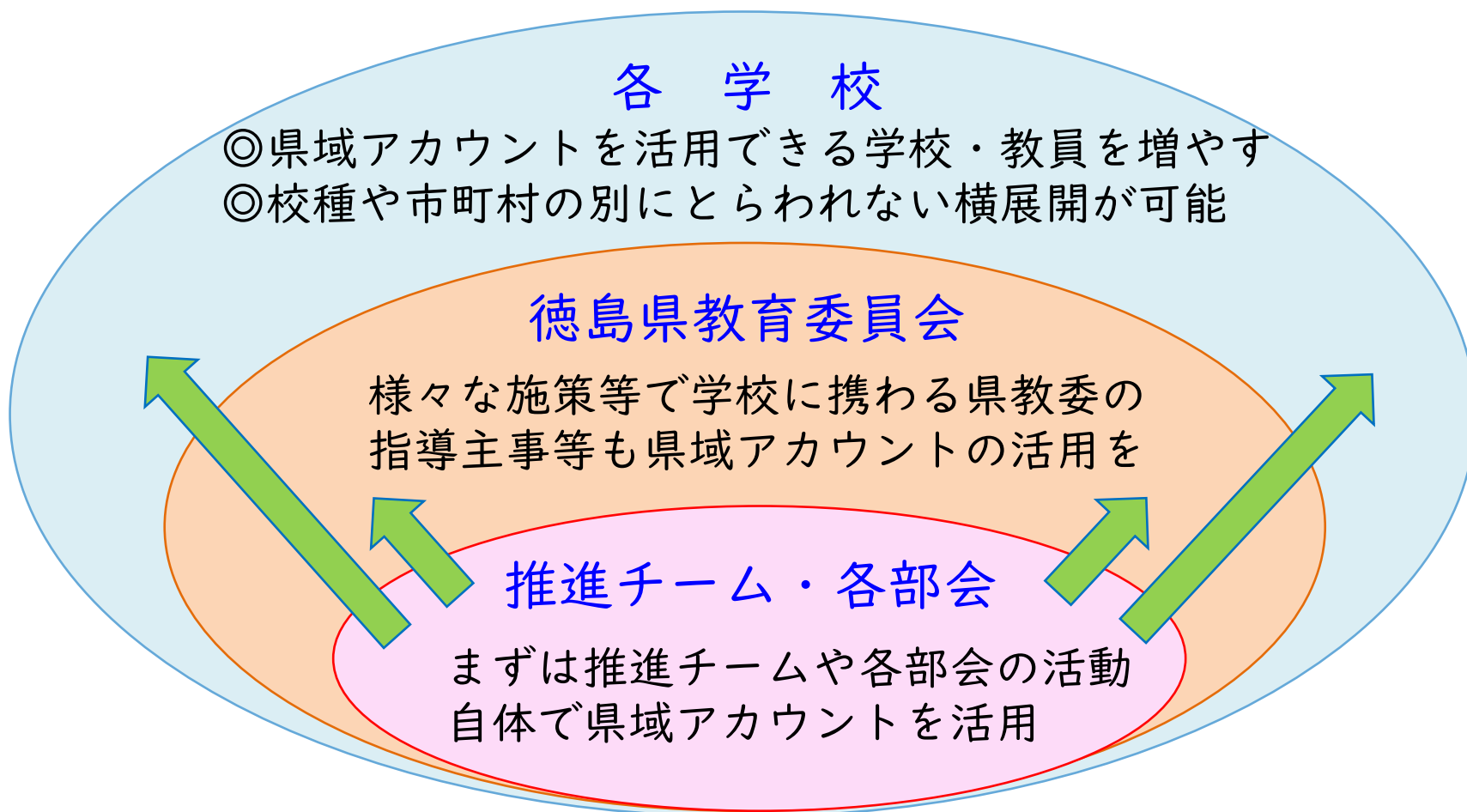
県域アカウントのツールを活用して

# R7 徳島 I C T 活用モデル推進チームの取組

(推進チームより)

## 令和7年度の重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出
- ②「県域アカウント」の普及



# 令和7年度 年間スケジュール

(推進チームより)

## 徳島県GIGAスクール構想推進本部

### 推進本部・各部会

### 徳島ICT活用モデル推進チーム

月

4

・推進本部・部会設置・委嘱

・学校訪問計画、準備、打合せ  
・教育DX推進に係る年間スケジュール表の発行(各校へ)

5

・第1回各部会の開催  
・徳島県学校教育情報化推進計画に係る調査  
・第1回推進本部会議(本日)

・**前期学校訪問実施開始【5月～7月】**  
(施策の周知、指導・助言、取組や意見の収集)  
・各部会への情報提供(通年)

6

・とくしまGIGA推進月間

9

・**後期学校訪問実施開始【9月～12月】**

10

・第2回各部会の開催

11

・第2回推進本部会議

・とくしまGIGA推進月間

12

・とくしまGIGA推進月間の取組紹介

2

・第3回各部会の開催

3

・第3回推進本部会議  
・次年度に向けての準備

・次年度に向けての準備

※教育DXタスクフォース及び共同調達検討部会は、このとおりではありません。

## 令和7年度 小学校部会の役割

小学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援  
- ICTを日常に生かし、学び方を選べる子を育てる使い方を広げる -

### 現状・課題等

- ① 情報活用能力が学びとつながりにくい  
- 学びの連続性や蓄積に課題  
- 児童の学びの変容が見えにくい
- ② タイピング・情報モラルにばらつき  
必修のプログラミング教育が不十分
- ③ 教員がICTのよさを実感しにくい



### 方策

- ① ICTスキル体系表の整備  
ICTカリマネの見直し、学び方パスポート  
振り返りテンプレートで記録・共有
- ② タイピング大会と育成モデルの可視化  
STEAM型授業の推進(Minecraft等)
- ③ 好事例を周知し、活用法を共有

### 具体的な取組計画

部会での取組

学校への依頼

4 月

第1回部会

6月推進月間

9 月

第2回部会

11月推進月間

1 月

第3回部会

#### ① スキルの体系化と見える化

学習履歴のポートフォリオ化を通じた主体的な学びの継続的育成

ICTスキルチェックリストと年間計画の整理

記録ツールや振り返りの仕組みを検討

#### ② 基礎力の強化

タイピング  
夏休み練習大会

低学年向けタイピ  
ング指導の検討

タイピング  
冬休み決勝大会

GIGAワーク  
ブックの検討

#### ③ 好事例の普及

校内の情報共有・相談環境づくりに向けたGoogleチャット活用支援

学校訪問や公開授業等でM段階・STEAM・Google Workspace<sup>TM</sup>事例を収集し、HP等で随時発信



## 令和7年度 中学校部会の役割

中学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援

### 現状・課題等

- ・教員も生徒も普段使いができています
- ・外部からの講師を招いての研修を行い、職員間で共有をはかることができた
- ・生徒も研修を受けたので、色々な制作にICTを使う場面が増えている
- ・メンター研修を行い、ICTを活用できる教員が増えた
- ・SAMRモデルのM段階へ向けての手立てがわからない
- ・SAMRモデルを理解するのが難しい、段階がグラデーション
- ・進んでいるICTの使い方の情報をどのように共有していくか



### 方策

- ・個人内で立てる明確な目標
- ・リーフレットに掲載されている実践の積極的活用（「徳島ICT活用モデル」の実践）
- ・学校訪問で好事例を発信

### 具体的な取組計画

4月

第1回部会  
(5月)

6月推進月間

9月

第2回部会  
(11月)

11月推進月間

1月

第3回部会  
(3月)

・各学校、市町村教育委員会から好事例の収集・整理→情報共有

・組織的なスキル向上につながる研修の充実（他教科への相互参観、実践の広報）

・ Google Workspace<sup>TM</sup>の効果的活用の推進（校務、授業内）

・ Google Workspaceの活用を支援（活用法やマニュアル等の作成）

次年度の準備

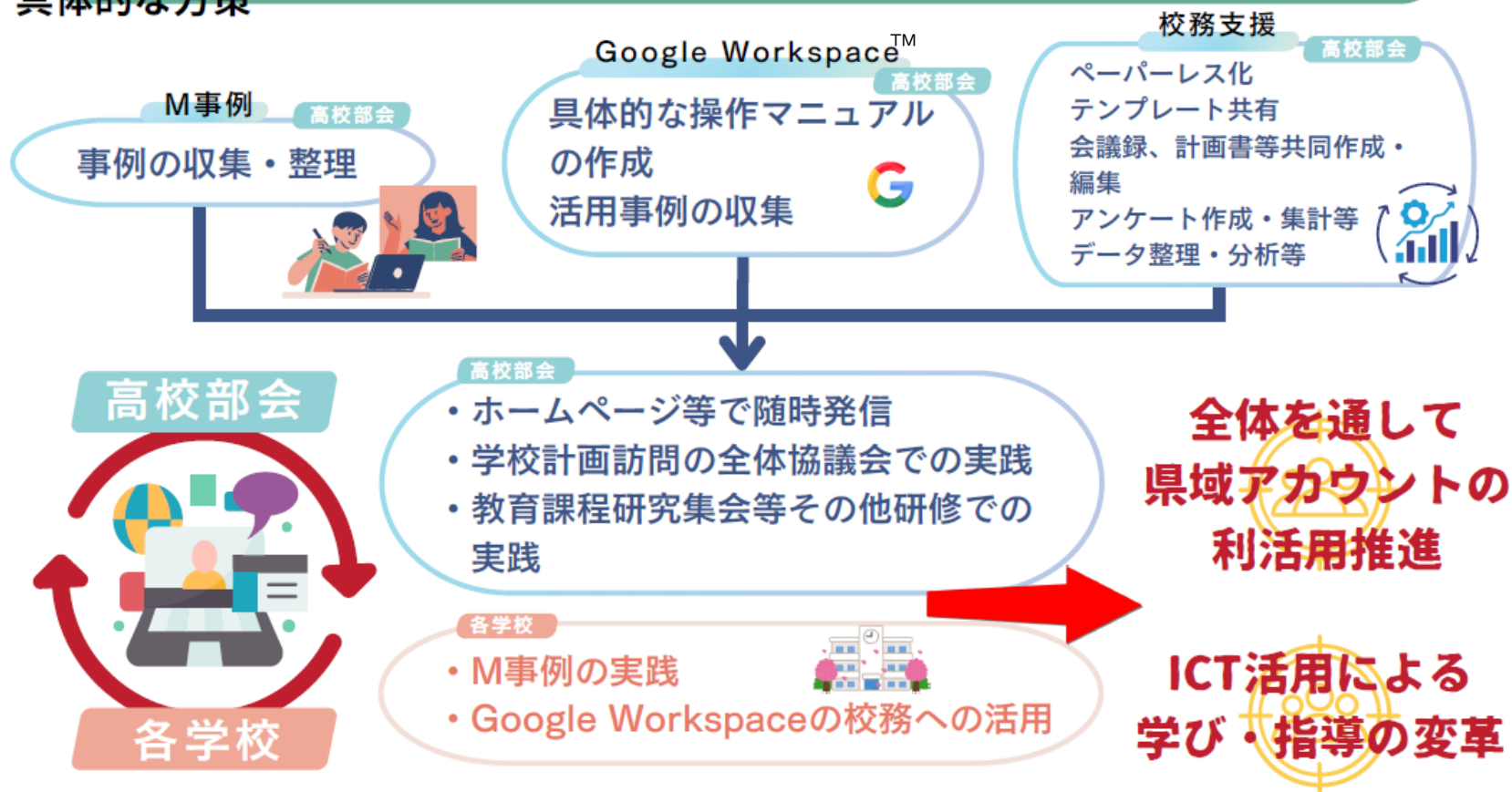
## 令和7年度 高等学校部会の役割

ICT活用による学び・指導の変革と県域アカウントの利活用推進

### 現状・課題等

- ①学校間や教員間等でICT活用の進捗に差があり、全体として活用の幅を広げる必要性
- ②県域アカウントの利便性周知（「標準化・自由化」の促進）

### 具体的な方策



## 令和7年度 特別支援学校部会の役割

特別支援学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援  
ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の充実～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

### 現状・課題等

- ・オンラインの活用による新たな学びや体験の充実
- ・ICTを活用した新たな学びや体験の創出
- ・実態に即した「情報モラル・セキュリティ教育」の工夫

### 方策

- ・好事例を周知し、活用法を共有
- ・専門家と連携し、新たな学びや体験に係る研究を推進
- ・「情報モラル・ターゲット表」の共有と活用による学習の拡充

### 具体的な取組計画（スケジュール）

部会

学校

4月

第1回部会  
(5月)

6月推進月間

9月

第2回部会  
(11月)

11月推進月間

1月

第3回部会  
(3月)

【部会】

部会準備  
計画策定

児童生徒を主体としたオンラインを活用した学びの場「情報モラル研究会」を企画・運営

「教育版マイクラフト」での交流や各校の特色ある取組の紹介等、オンラインによる交流機会を提供

専門家と連携し、モデル校においてICTの活用方法を研究し、成果を共有

随 時 イ ン ス タ グ ラ ム に て 配 信

適宜、学校や先生方からの意見を収集。（Google フォーム・Google スプレッドシート<sup>TM</sup>の確認）

次年度の準備

【学校】

『情報モラル・ターゲット表』を共有・活用しながら、ともに学ぶ機会を拡充

オンラインによる交流及び共同学習に参加し、シームレスな学びを実現

モデル校において、ICTの活用方法を専門家と連携して研究し、成果を発信

# 令和7年度GIGAスクール構想推進本部【教育DXタスクフォース】部会

## 令和7年度重点目標

徳島県における教育のDXを推進し、教育に必要で持続可能な環境を構築する協議及び調整を行う

### 課題

- ・ 県域の統一アカウントの円滑な配布と活用促進
- ・ 県立学校のネットワーク環境の最適化
- ・ タブレット端末の更新と教育利用の推進
- ・ 学校教育情報化推進計画の着実な実行と継続的な改善

### 方策

- ・ 有識者からの意見聴取と教育現場のニーズ反映を重視した計画策定
- ・ 関係機関との連携強化による効率的な事業推進
- ・ 教育効果の検証と計画改善のための評価体制構築

## 具体的な取り組み

### 第1回部会

- ・ 令和7年度の重点目標、課題、方策について説明し、委員間で共有する。
- ・ 県域の統一アカウント配布計画、ネットワーク環境改善計画、タブレット端末更新計画の策定方針についての意見聴取する。
- ・ 教育現場からの意見聴取方法について協議する。

### 第2、3回部会

- ・ 第1回部会で得られた意見を踏まえ、各計画の素案を検討する。

※補足

計画は、タスクフォースにおける議論や、教育現場からの意見、有識者からの助言等を踏まえ、適宜修正される。

計画の推進にあたっては、関係機関との連携を密にし、効率的かつ効果的な事業実施に努める。

## 令和7年度 情報モラル・情報セキュリティ対策部会の役割

### 情報モラル・情報セキュリティ関係の情報収集・発信等

#### 課題

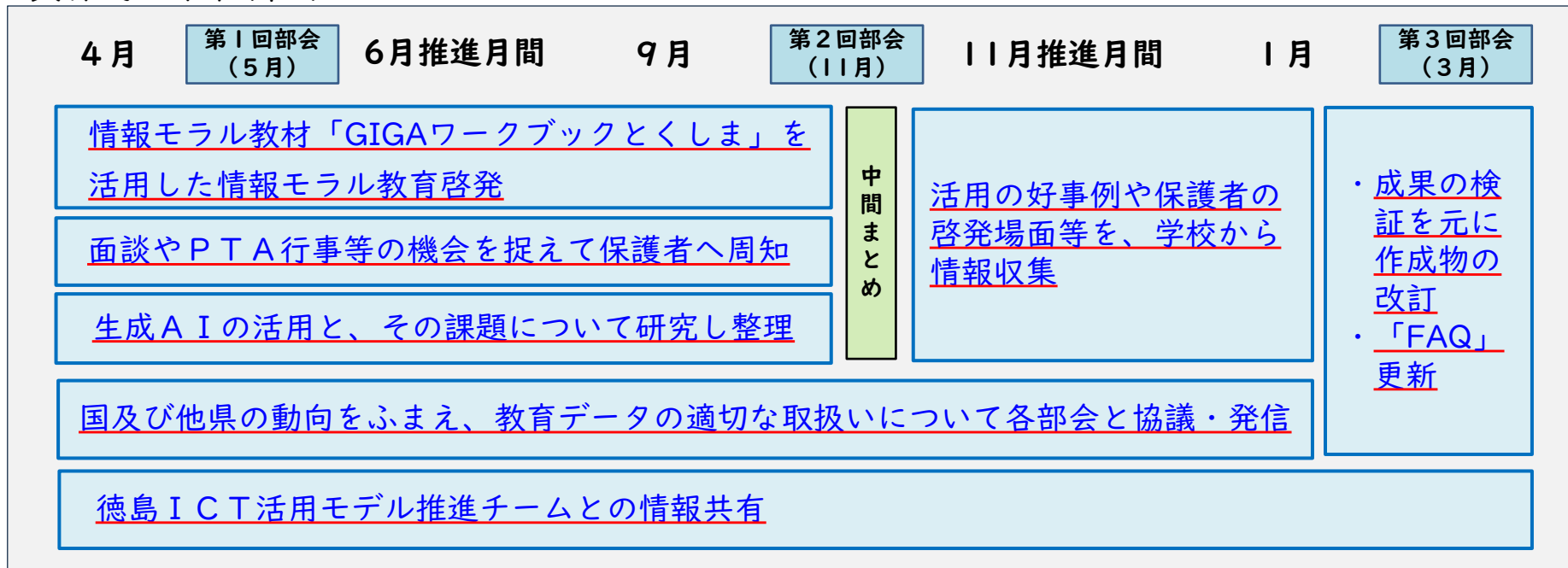
- ・技術の進化や教育現場の課題への対応
- ・データの保護に対する意識の向上
- ・生成A Iの適切な利活用



#### 方策

- ・自他の人権を尊重する情報モラル教育の推進
- ・情報を正しく安全に利活用できる情報活用能力の育成の推進
- ・校務の様々な場面における、生成A Iの適切な利活用の推進

#### 具体的な取組計画



## 令和7年度 学びの保障部会の役割

学校（教室）外における学びの場を保障するためのICT活用についての研究

### 現状・課題等

- ① 不登校児童生徒の学習の成果に係る  
**成績評価**
- ② 教員の**ICTスキルには個人差**があり、  
より広範な活用が必要



### 方策

- ① 学校計画訪問や教育支援センター等の  
訪問で好事例の**情報収集・発信**
- ② ・ **Google Workspace**™の活用法等の発信  
・ **Google Chat**™を活用してコミュニケーションを深める

### 具体的な取組計画 (部会での取組☐、部会員への依頼☐)

4月

第1回部会  
(5月)

6月推進月間

9月

第2回部会  
(11月)

11月推進月間

1月

第3回部会  
(3月)

年間取組計画・  
役割分担の提示

学校計画訪問等で、学習成果の評価方法等の、  
好事例を収集・整理、部会通信で発信

今年度の  
成果と課題

- ・ **Google Workspaceの操作方法、活用方法等を部会通信で発信**
- ・ 学校計画訪問等で、県域アカウントの利用促進

不登校等児童生徒の、ICTを活用した学習の取組、学習成果の評価方法の好事例収集

義務教育段階

特別支援学校

校内教育支援センター

教育支援センター

保健室登校

- ・ Chat等のコミュニケーションツールの活用
- ・ Google Workspaceを活用した共同編集等

**県域アカウントを用いた  
好事例収集**



## 令和7年度 データ活用研究部会の役割

教育データ利活用についての研究（県域アカウントを用いたデータ利活用・MEXCBTに関する調査）

### 現状・課題等

#### 県域アカウントを用いたデータ利活用

- 各校が使用する様々なツールのデータが混在しており、統合や連携が難しい。
- 県域アカウントで利用できるツールを、活用している教職員・児童生徒が少ない。

#### MEXCBTに関する調査

- 全国学力・学習状況調査（全国学調）は、令和9年度、MEXCBTに全面移行の予定である。
- 地方学力・学習状況調査（地方学調）においても、文科省はMEXCBTの活用を促進している。

### 方策

※ MEXCBT（メクビット）：文部科学省のCBTシステム

- 将来的な教育データ利活用のために、データ形式の標準化の必要性を発信していく。
- 県域アカウント及びツールの積極的活用と教育データのクラウドへの蓄積を促していく。
- MEXCBTでの全国学力・学習状況調査や他県の地方学力・学習状況調査について、動向や運用状況等を調査・研究する。

## 具体的な取組計画

第1回部会  
（5月）

6月推進月間

9月

第2回部会  
（11月）

11月推進月間

1月

第3回部会  
（3月）

進捗状況の確認・修正

まとめ・次年度への引継

#### 県域アカウントを用いたデータ利活用

- ・キャリアパスポートのデジタル化（フォーマット案の作成、データの引継方法についての提案等）
- ・県域アカウントを用いたデータ利活用の利点について発信、事例等を研究・調査

#### MEXCBTに関する調査

- ・昨年度に引き続き、他県への聞き取りを実施
- ・今年度の中学理科をもとにした分析（IRTでのフィードバック方法等）

データ活用研究部会に関する情報等の発信についても県域アカウントのツールを活用

令和7年度 共同調達研究部会の役割 ※共同調達検討部会は、徳島県教育情報化推進協議会に係る検討組織の役割も兼ねる。

GIGAスクール構想推進に向けた調達スキームの構築・実行計画の提案(小・中学校の端末・次世代システム等)

## 現状・課題等

- ・「学校業務支援システム」の更新に向けた、次世代校務支援システムの導入の検討
- ・GIGAスクール構想推進に向けた、端末機器等の仕様等の検討



## 方策

- ・他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握をしながら、校務支援システムワーキンググループにおいても検討を実施していく。
- ・端末調達に係る市町村の事務負担の軽減や、スケールメリットによる端末等の共同調達を通じた端末利活用等に係るノウハウを共有することで業務改善を図る。

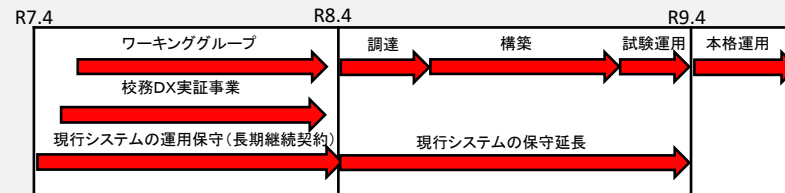
## 具体的な取組計画(スケジュール)

### 1.学習者用コンピュータの共同調達について

- (1) 共同調達について
- (2) 徳島県内の調達状況
- (3) これからの予定

令和8年度の共同調達に向けて、徳島県教育情報化推進協議会にて仕様書を検討していく。

### 1.校務支援システムの導入スケジュール



### 2. ワーキンググループの予定

回	日付	対象	開催方法	内容等
1	4/23(水)	全	オンライン	ワーキンググループ設置について 目的や構成員について
2	5/13(火)	高特	オンライン	各ベンダーからのプレゼンテーション
	5/14(水)	小中		
3	6/2(月)	小中	総合教育センター集合	各ベンダーのシステムの操作体験会
	6/3(火)	高特		
4	6/18(水)	全	オンライン	必要な機能についての意見交換 システムに対する意見の集約に向けて
5	7/1(火)	全	オンライン	必要な機能についての意見交換 システムに対する意見の集約に向けて

### 2.校務支援システムの更改について

- (1) 現状
- (2) 学校業務支援システムの経緯
- (3) 今後の方針

次の条件に合う統合型校務支援システムを導入する。

- ・小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等のシステムを県域で共同調達可能
- ・小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等までのデータ連携可能
- ・文部科学省が示す次世代校務DXに対応
- ・多様なクラウドサービスと連携可能
- ・保護者連絡機能との連携可能